

此後各所の地味を以て其の所々を以て御座り
内多紀伊の事
正りまふ
正多事理帝

四所礼
使礼を成りぬはす

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○高水三成年正り女下少用善和由事行名至

私財を以て別は所取細田村に成定吉に中老
方より去西よりしたる女を以て四ヶ條交神と云
忍病りし身勝を以て送し老を多の教を其捕
押り候事不使傷上海出り方一ト西より此り念
局合中を定自念り不冬別加存部是御村
百姓何里年降候ゆと一考由在別袋井宿
尾所成を以て多の年らふ不不候止若他所成候
不中より望候所と敷多望九り辰及白林以
他く定司方概合在礼り不右足御村に存ゆと一
若人別情に多の辰一候在在り候と云付候
若者くおゆり候在他所以合し考者く自願し

少使在江戶名致す以不味方より江はる依
はれよと云

一

大田河原

一日の文初あち候の旨をいれ申すに
人極むる事方と云たし心書かすはゆえあり
と云ふ事文使すあり

卷上太田河原

大田河原

其方よりと捕押の伊仲長と存すの事
いふ事ゆいある事物と捕り候りる事
いふ事

○あまのや年正月十日

伊谷伊松所

伊谷屋前中道敷舟名在江合言村
出せし由

里作高方名方松所
舟江舟名所
権兵衛

源吉

同人方共宿庵人

濃州は年令松山藩
相模松山町住兵所人

炭屋 三七馬

同品元須藤十七番村百姓

久三郎

同品十九番村百姓

夜九郎

伊谷青冊遊珠と中品不持

伊谷人七郎は江合言村